内谷市長の ゆるやかコラム

「文化やスポーツを楽しめる 笑顔あふれるまちを目指して」



先月は天候不順な日が続き、収穫期を迎えた農業者の皆様をはじめ、物価高騰の影響もあり、事業者の皆様、そして市民の皆様にも少なからず様々なご苦労があったことと存じます。10月に入り、収穫の秋を迎えました。お祭りやスポーツ大会など多くのイベントを通じて、市内外から再び多くのお客様をお迎えし、活気に満ちた長井のまちが見られることを楽しみにしております。

以前も触れましたが、長井市は市議会や市民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、財政再建直後の12年間で集中して公共施設整備を断行してきました。

それは東日本大震災以降、公共施設の耐震比率向上が義務化され、基準に達していない公共施設は使用できなくなったからです。そのため市が昭和56年(現在の耐震基準)までに建築した築60年の市庁舎、学校や病院、文化会館などほぼ全ての施設の再整備が新たな喫緊の最重要課題となりました。約15年以上に渡る過去の財政再建の教訓を生かしたお陰で、借入金返済は計画的に進めておりますので、必要な公共事業にも創意工夫を重ねながら、少しでも市民の皆様のご要望に応えてまいる所存でございます。

一方、県が進めている駅前通りの街路事業に合わせ、市が中心となって国・県とともに民間事業を支援する市街地再開発事業が、いよいよ本格的に前進しようとしています。ぜひ市民の皆様からも、この民間事業者の取り組みへのご理解と応援をお願いいたします。

さらに、今年度設計を進め、来年度・再来年度にかけて、道の駅に隣接する最上川河川敷に、計画的にドッグランや、バスケットボール、フットサル、スケートボードを楽しめるスポーツパークを整備する予定です。

加えて、文教の杜周辺では、民間事業者の皆様と文教の杜が協働し、カフェやレストラン、ゲストハウスなどを整備いただけるよう、国の地域未来交付金などを活用して支援したいと考えております。さらには、国の重要文化的景観に選定されているまちなみを生かし、文教の杜に所蔵されている貴重な美術品を「まちめぐり美術館」として、民間の皆様と4カ所以上整備する計画も進めております。市内外の皆様にまち歩きと文化やスポーツが楽しめる“笑顔あふれる”まちづくりを、進めてまいりたいと思いますので、市民の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。